

## 平成20年度 民間住宅ローン利用者の実態調査 【民間住宅ローン利用予定者編】

### 1. 調査の概要

今後5年以内に具体的な住宅取得に伴い、民間住宅ローンを利用予定の方を対象にして、希望する住宅ローンの金利タイプなどに関して、インターネットによるアンケート調査を年1回実施(2/4～2/6)し、その結果を取りまとめたものである。回答数:2,562件。

### 2. 調査結果の主なポイント

#### (1) 消費者の金利先高感は大幅に低下

- ・ 消費者の4人に1人(26.5%)は、今後1年間の金利が「ほとんど変わらない」と回答、前年調査(08年2月実施)15.6%に比べ、金利先高感は大幅に低下している。<p3>

#### (2) 4割を超える根強い長期固定ニーズ

- ・ 「全期間固定型」希望は、前年調査(08年2月実施)の51.5%から低下しているものの、消費者の長期固定ニーズは根強く、住宅ローン利用予定者の44.4%が「全期間固定型」商品の利用を希望している。<p2>

現下の経済情勢を背景に、消費者の金利先高感大幅に低下しているが、長期固定金利商品へのニーズは根強く、住宅ローン利用予定者の44.4%が「全期間固定型」商品の利用を希望している。

#### (3) 住宅取得に踏み切れない理由

景気後退などを背景に、収入減少、雇用不安に伴う将来の収入や生活への不安を抱え、先行き不透明感からお金を使いたくないなど、住宅取得に踏み切れないようだが、30歳代を中心に「もう少し待てば、住宅価格が下がる」など潜在需要への底堅さもうかがえる。

<p6>